

筆跡と書字意識と性格の間の相互の関連の検討

西園 薫 ・ 無藤 隆

(お茶の水女子大学生活科学部)

【問題】

一般に、筆跡は性格特性を示すと言われている。本研究では、書字行為で示される性格特性は、複合的との立場に立ち、さらに、性格特性以外の書字意識と書字行為との関連を検討する。また、他者の筆跡判断の妥当性についても検討する。仮説を以下に示す。

仮説1：書字と、書者の「YG性格検査得点」は関連があり、いくつかの性格特性が関連している。

仮説2：特定の条件下(例：「清書」)では、各人の書字意識が本来の字体に変化を与える。この変化の程度は、書字意識の内容・程度に対応する。

仮説3：一般的に筆跡から書者の性格を判断する場合、主観的な判断基準によるため、必ずしも判断が当とは限らない。ただし、この判断基準にはある程度の普遍性があり、それが社会的通説となっている。

【方法】

研究1：書字意識質問紙の作成：①書道歴、②ワープロ使用、③書字意識について(計50問)。

研究2：書字と性格との対応の検討

①テープ録音の文章を2回聞き筆記、それを清書する、②調査1の質問紙、③YG性格検査の実施。

研究3：書字から受ける性格の印象の検討：①対象となる文字の選定：聞き書きと清書から8タイプの代表を各々1つ選んだ。②字の印象を尋ねる質問：「きれい・汚い」など8対について5段階評定。③性格を推定する項目：YG検査での12特性を20対とした。その得点を12のYGに相当する得点に平均する。

◇被験者

研究1：大学生374名(男子192・女子182)、研究2：50名(各25名)、研究3：35名(男子15名・女子20名)

【結果】

研究1：書字意識質問紙の作成

1)書字意識の因子分析：主因子解、Varimax回転。固有値の落ち込みから3因子を抽出。→第1因子：性格と書字との関連、第2因子：書字肯定、第3因子：美形。

研究2：書字と性格との対応の検討

1)黒田(1964)を参考に評定項目を作成し、3段階評定。2)因子分析：聞き書き、清書別々に行った。共に4因子。①大きさ、②つながり・正確、③傾斜、④濃淡・角丸。あわせて100個の書字の評定の因子分析の因子得点から、性*書字形態の分散分析。→有意差：①性、

②性、形態、性*形態、④性、形態。

3)相関分析：①聞き書きと清書との関連：対応する因子の間にやや高い相関(.475~.596)。②書字と正確との関連：書字の因子得点とYG得点(5段階の標準点)との相関、聞き書きでは、「のんきさ」と「つながり・不正確」(.288)、「左上がり」(.326)に有意な関連があった。清書では、4箇所にも有意な相関があった。③書字意識と書字の関連：聞き書きでは、「関連」と左上がりに負の、清書では「関連」と大きい字に正、「美形」とつながり・不正確とに負の有意な相関があった。④書道歴・ワープロ得点との関連：清書において関連が多少あり。

4)きれいさとの関連：字の「きれいさ」を評定し、因子分析し、確認された1因子をきれいさ得点とした。→①聞き書きと清書の間の相関は高い(.736)。②きれいさと書字との関連：つながり・不正確と対応。③きれいさとYGとの関連：協調性ときれいさ、社会的外向ときれいさに有意な相関。④きれいさと書字意識との関連：書字肯定が正に相関。⑤きれいさと書道歴・ワープロ使用との関連：書道との関連あり。

5)書字意識と性格・書道歴・ワープロ得点との関連：①書字意識の因子得点とYG標準点との相関：書字肯定が、協調性高く、社会的に外向。②書字意識の因子得点と書道歴・ワープロ得点：「美形」と書道との関連が認められた。

研究3 筆跡観察実験

1)相関による対応の分析：各文字に付与された性格得点と推測された対応する性格得点との対応：多少とも一致するのは社会的外向。特に一致の高い人はいない。2)字の印象と推測される性格の因子分析：字の印象の因子分析：①安定・非内省、②陽気・主導権、③不適応、④不安定。相互を込みにしての因子分析：①適応的性格、②字の悪印象が、社会的不適応とまとまった。

【結論】

仮説1：性格と書字の特徴と対応は乏しい(のんきさ、社会的外向などに関連が見られることもある)。

仮説2：書字意識は書字の形と関連がある。きれいな字を書くことも関連する。書道経験や書道をしたという意欲は、字のきれいさや書字意識と関連する。

仮説3：多くの人は、書字に性格特性を感じる。

※資料収集に矢野(1991)の協力を得た。